

**SEIWA**

OPE-MAN/SCPE-/2507

ガソリンライト パッケージコンプレッサー

# **SCP-22GLS**

# **SCPE-22GLS**

**取扱説明書**



この度は、**SEIWA**「パッケージコンプレッサーSCP シリーズ」  
をご選定いただきまして厚くお礼申し上げます。

- 当機のご使用に際しては、この取扱説明書を熟読していただき、安全にご使用ください。
- 品質、性能向上又は安全上、部品の交換を行う事がありますが、その際は本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 不明な点やお気付きの事がございましたら、お買い上げ店、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。
- 文中の記号について

|   |   |
|---|---|
| <b>△危険</b>  | 適切な事前注意をとらないと<br>死亡又は重傷を負う危険性が大きい事を示します。      |
| <b>△警告</b>  | 適切な事前注意をとらないと<br>死亡又は重傷を負う可能性があることを示します       |
| <b>△注意</b>  | 適切な事前注意をとらないと<br>傷害又は製品の重大な損傷を招く可能性があることを示します |
|  <b>留意</b> | 製品の使用上の留意点や参考となる事柄を示します。                      |

## 目 次

|     |                |         |
|-----|----------------|---------|
| 1   | 使用上の注意         | 1 ~ 2   |
| 2   | 各部名称           | 3       |
| 3   | 運転準備           | 4 ~ 6   |
| 3-1 | 燃料の補給          | 4       |
| 3-2 | オイルの補給         | 5       |
| 3-3 | オイルセンサーの機能と取扱  | 5       |
| 3-4 | 新しいエンジンの取扱上の注意 | 6       |
| 4   | 始動             | 7 ~ 8   |
| 5   | 運転             | 9       |
| 6   | 停止             | 10      |
| 7   | 定期点検           | 11 ~ 14 |
| 8   | 長期格納する場合のお手入れ  | 15      |
| 9   | トラブル対策         | 16      |
| 10  | 仕様諸元表          | 17      |

# 1 使用上の注意(安全にご使用いただくために)

## △危険

### ●排気ガス中毒に注意

- ・室内、トンネル、船倉、タンク内、テント内等の換気の悪い所や、建物や遮へい物等で風通しの悪い場所では絶対に使用しないで下さい。

### ●火災防止の為の注意

- ・燃料の補給は、必ずエンジンを停止し十分に冷やしてから行って下さい。
- ・補給中は、火気を近づけないようにして下さい。
- ・燃料がこぼれた時は、布等で完全に拭き取って下さい。
- ・燃えやすい物や危険物(プラスチック、油脂類、シンナー、塗料火薬等)の近くでは使用しないで下さい。
- ・床面のしっかりした水平な場所で建物や設備からは2m以上離して使用してください。

## △警告

### ●巻き込みに注意

- ・運転中、回転部分に手を触れたり物を差し込んだりしないで下さい。誤って触れたりすると、手や服が巻き込まれ大ケガを負う事になります。

### ●ヤケドに注意

- ・運転中及び停止直後は、マフラーやマフラーカバー、エンジン本体及びコンプレッサーまわりは熱くなっています。手や肌が触れないようにして下さい。
- ・熱いエンジンオイルが体にかかるとヤケドする恐れがありますので十分注意して下さい。

### ●ホース破損に注意

- ・圧縮されたホースは非常に危険です。損傷したホース、折れ曲がったホース、継手金具が悪い物は、新品と交換してください。ホースの金具類はしっかり取付けてください。

### ●圧力に注意

- ・移動、点検時はあらかじめドレンバルブや吐出コックを開き、空気タンクの圧力をゼロにして下さい。

### ●ドレン排出に注意

- ・ドレン排出中はドレン弁の下に手を入れないで下さい。異物が飛び出し、ケガをする恐れがあります。

### ●圧縮エアに注意

- ・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系等の人命に関わる設備に使用しないで下さい。

### ●異常発熱・異音に注意

- ・異常発熱や、異音が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社営業所、サービス店にご相談ください。

### ●オーバーヒートに注意

- ・万が一オーバーヒートでエンジンが停止した場合(ガソリンタンクが触れない熱さの時)はガソリンタンクキャップを緩めたりせず、トップカバーを空けたまま20分以上冷却してください。シールスポンジ等に異常のある場合は直ちに修理してください。

# 1 使用上の注意(安全にご使用いただくために)

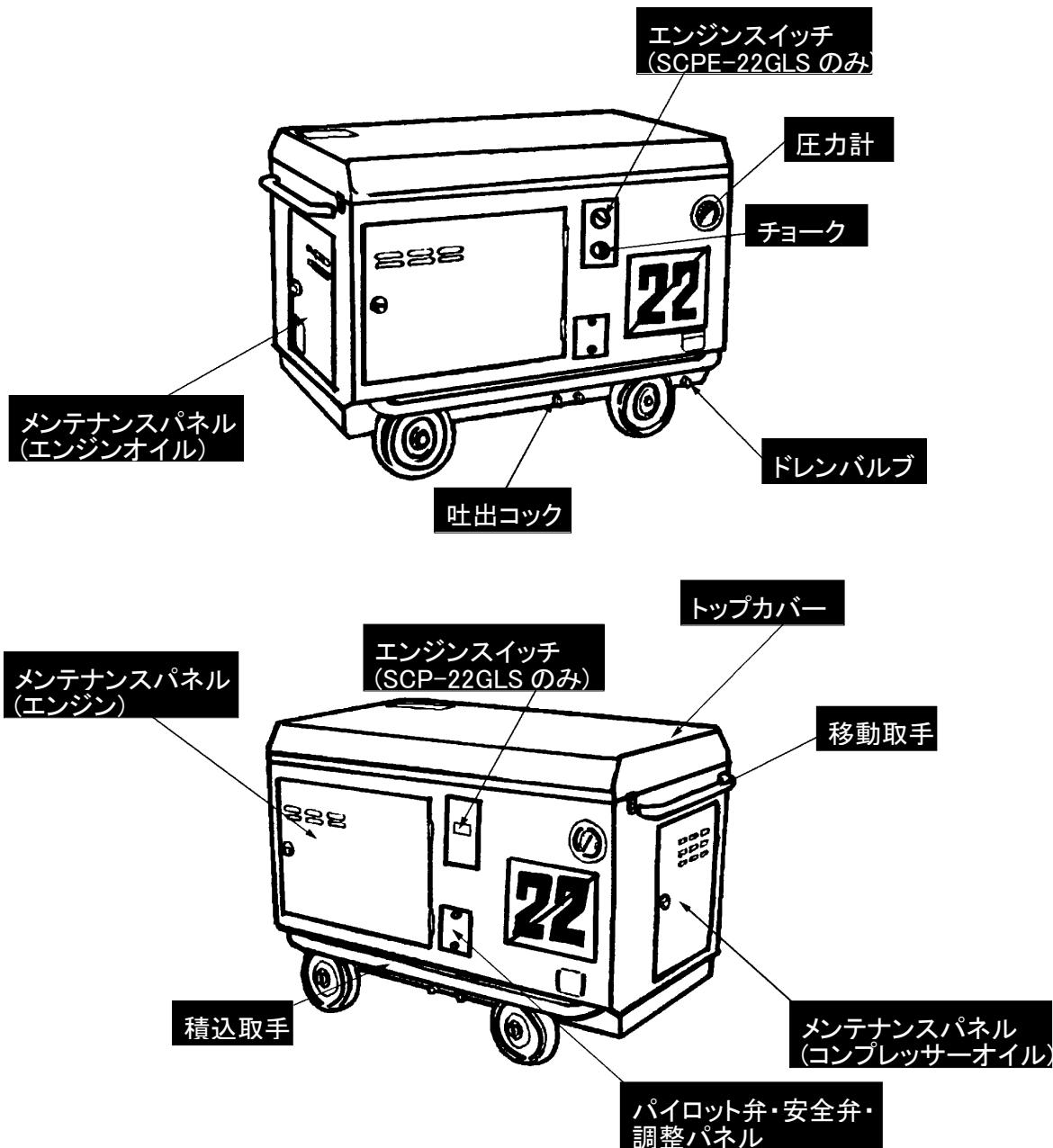
## △注意

●設置床面が軟弱な場合はコンパネ等を敷いてください。床面が水平でないと、吸気口が塞がり温度上昇によるトラブルが発生します。

- トラックの荷台等ではご使用にならないで下さい。(必ず地面におろしてご使用ください。)
- 運転中、本機械が動き出さないよう車輪に輪止めをして下さい。
- 運搬時はタンクキャップを確実に締め、燃料コックを閉じて下さい。又、長距離悪路の運搬時はタンク燃料を抜いて下さい。
- 始動時にはコンプレッサーの周りを良く見て安全を確認してください。
- エアクリーナーのエレメントは必ず取付けて始動・運転してください。逆火により炎が噴出す恐れがあります。
- 作業したままの状態で急にエンジンを止めるとマフラー内で未燃ガソリンに着火し、爆発音や、炎が噴出する場合があり危険です。
- 長時間使用しない場合は、燃料コックを閉じたままエンジンを運転し、キャブレター内部の燃料を空にして下さい。
- 関係者以外やお子様は近づけないで下さい。誤った操作やいたずらにより思わぬ事故を招きます。
- 使用後ドレン抜きを行って下さい。ドレンが溜まつたままの状態ですとタンクの腐蝕の原因となります。
- 本機を高所から落とさないで下さい。タイヤ破損、本体のひび割れの原因となります。
- ケガ防止の為、服装はきちんとし、ヘルメットを着用し、靴は滑り止めのついたものを着用して作業してください。
- 周囲温度40°C以下の直射日光を避けた風通しの良い場所で運転し、吸・排気口及び周囲には物を置かないで下さい。箱内温度上昇により性能低下・事故などの原因になります。
- バッテリーケーブルをはずして運転すると端子部から火花が発生し火災につながる恐れがあります。バッテリーが消耗しても、ケーブルを取外して運転することは絶対にしないでください。

## 2 各部名称

### SCP-22GLS/SCPE-22GLS



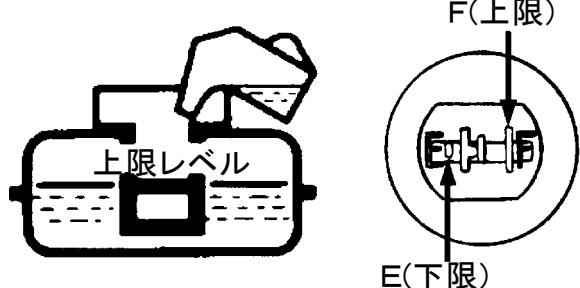
### 3 運転準備

#### 3-1 燃料の補給

燃料は自動車用のレギュラーガソリン(オクタン価89~92)をご使用ください。

##### △注意

- ガソリンの入れ過ぎはこぼれて危険です。  
上限レベルよりやや控えめに入れてください。
- ガソリン補給後は、タンクキャップを  
確実に締めてください。



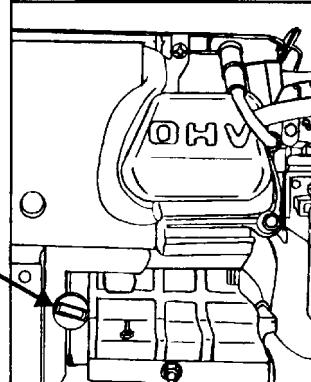
#### (1) エンジンオイルの補給

運転前には必ず油量確認(メンテナンスパネル[コンプレッサー油]を開け検油棒にて確認)し、不足の場合は下記指定のガソリンエンジンオイルを補給してください。

##### <ガソリンオイルの選定について>

本機はパッケージタイプのコンプレッサーです。  
エンジンの機能を正常に保つ為、エンジンオイル  
はSE級以上、粘度10W40又は、15W40  
を使用してください。

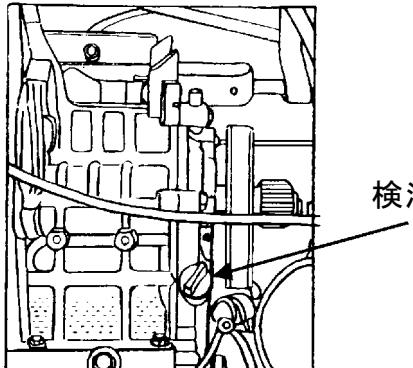
検油棒



#### (2) コンプレッサー油の補給

運転前に必ず、油量を確認(メンテナンスパネル[コンプレッサー油]を開け検油棒にて確認)し、不足の場合は当社エスコンオイルを補給してください。

検油棒



### 3 運転準備

#### 3-2 オイルの補給(工場出荷時は補給済み)

##### △注意

オイルの抜取り、補給後はドレンプラグやオイルゲージを確実に締付けて下さい。  
熱いオイルが飛散し、危険です。

##### □注意

- エンジン側とコンプレッサー側では使用オイルが異なります。  
それぞれ指定のオイル(P6 参照)を使用してください。万一、指定外のオイルを使用したり交換を怠ったりしますと焼付や異常磨耗等が発生し、エンジン及びコンプレッサーの寿命が著しく短くなります。正しい取扱をして下さい。
- オイル量の点検はエンジンを水平にして調べます。(オイルは入れすぎても少なすぎても有害です。)

##### ＜規定量＞

検油棒を補給口に当てて(ねじ込まないで)上限レベルまで補給して下さい。



#### 3-3 オイルセンサーの機能と取扱

##### △注意

オイルセンサーはオイルが劣化すると作動しない事があります。  
日常点検、定期点検等は取扱説明書に基づいて確実に行ってください。

- (1) オイルが規定量以下になるとエンジンが自動的に停止します。  
(安全のため、検油棒の下限レベルより早めに作動するようになっています。)
- (2) オイルセンサーはエンジン・コンプレッサー共に装備しておりますので、  
オイル量を点検し指定のオイルを補給してください。  
(SCPE-22/33GLS はエンジン側のみ装備)
- (3) 本機は必ず水平に設置してください。傾斜状態で運転すると、  
オイルセンサーが正常に作動しない場合があります。

### 3 運転準備

#### 3-4 新しいエンジンの取扱注意

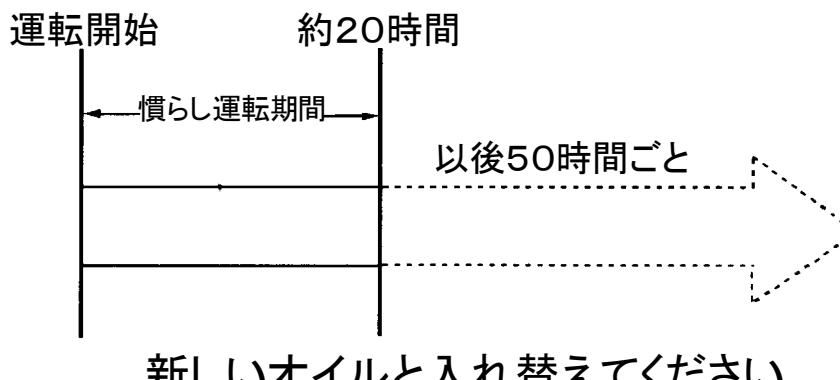
##### 留意

エンジンが新しいうちは各部が馴染んでいませんので、無理な使い方をすると寿命を短くします。最初の20時間くらいまでは、慣らし運転期間として、次の事をお守りください。

- (1) **始動後、約5分間は暖気運転を行ってください。**  
エンジンが暖かくなるまでは、無負荷運転を行い、むやみに空ぶかしをしないようにしてください。
- (2) **可負荷運転(オーバーロード)を避けて下さい。**  
慣らし運転期間は、負荷を控えめにしてエンジンに無理な負荷がかかるないようにしてください。
- (3) **エンジンオイルの交換を確実に行ってください。**  
運転開始後約20時間目に、エンジンの暖かいうちに交換を行ってください。  
(オイルの抜き出しは暖かいうちに行わないと古いオイルが完全に排出されません。)

##### 警告

●運転直後はオイルが非常に高温になっていますので、停止後50時間後に行ってください。ヤケドの危険性があります。

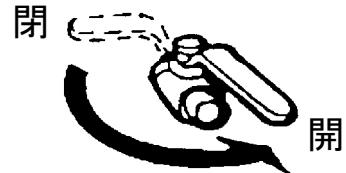


## 4 始動

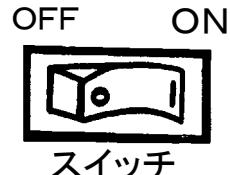
### △注意

- エアクリーナーのエレメント・フタは必ず取付けて始動・運転してください。  
逆火により炎が吹き出す恐れがあります。
- エンジン始動前に、必ず本機の周りをよく見て、危険の無い事を確認してください。

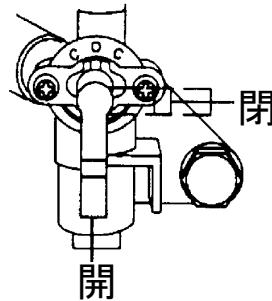
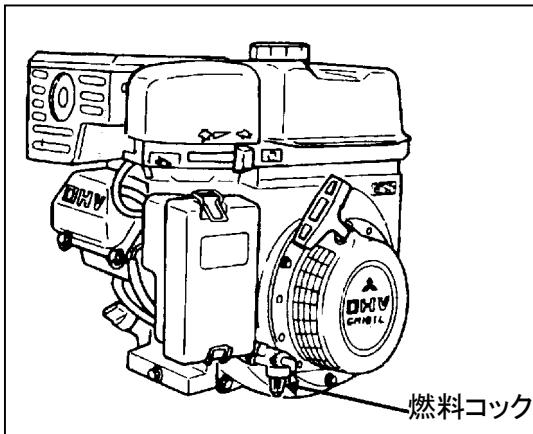
1 吐出コックを開きます。



2 エンジンスイッチを「運転」にします。(SCP-22GLS)



3 燃料コックレバーを「開」の位置にします。  
※メンテナンスパネル(エンジン)を開けて下さい。



燃料コックからガソリン漏れのないことを確認してください。

4 チョークを閉じます。

チョークはチョークノブ(引っ張ると全閉になります。)で、次のように操作します。

①寒い時の使用又は、エンジンの冷えている状態から始動する場合は全閉にします。

②暖かい時の使用又は、運転直後の暖まったエンジンを再始動する場合は、全開にして作動します。もし始動しない場合は、半開にして始動させてください。

③始動後チョークは、エンジンの調子を見ながら徐々に開いてゆき、最後には必ず全開にして下さい。  
(寒い時、急にチョークを開くとエンストを開くとエンストすることがありますのでご注意下さい。)

# 4 始動

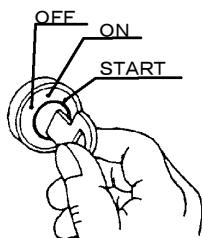
## 5 始動

### (1) セルモーターでのスタート (SCPE-22のみ)

キーをスタート位置に回し、エンジンがかかったらキーを放します。

(キーは自動的に ON の位置に戻ります。)

万が一バッテリーが上がった場合は、リコイルにてスタートしてください。



### (2) リコイルでのスタート

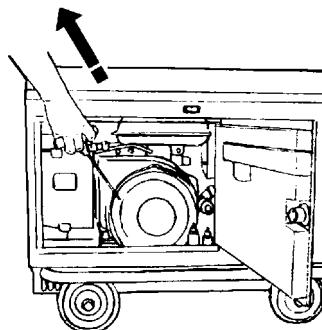
リコイルスターターのノブをゆっくり引き、スターターの爪がかみ合ったら

(ロープの引き具合が重たくなったら) 圧縮のある位置から勢いよく引っ張ります。

### 注意

スターターのノブは爪がかみ合うところまで  
必ずゆっくりと引いてください。

最初から勢いよく引くと、いきなり圧縮が  
かかり、ケガをする恐れがあります。



エンジンが始動してもすぐ止まる時は、オイル量が不足している場合があります。  
エンジンオイル及びコンプレッサーオイルを点検してください。

# 5 運転

## △注意

運転中にガソリンを補給することは危険ですので絶対にしないで下さい。

- 1 しばらく(約5分)暖気運転を行った後、吐出コック・ドレンバルブを閉じて圧力を上げて下さい。
- 2 圧力が徐々に上がり、0.69Mpa(7kgf/cm<sup>2</sup>)になると、アンローダーパイロット弁が作動し、コンプレッサーを無負荷状態にしてそれ以上圧力は上昇しません。
- 3 エアーを使用して圧力が0.54Mpa(5.5kgf/cm<sup>2</sup>)まで下がると、アンローダーパイロットが復帰し、再び圧縮運転を始めます。

☆正常に作動することを確認した後、コンプレッサーを使用してください。

## △危険

- 排気ガスは、有毒な成分が含まれています。  
換気の悪い場所では有害な一酸化炭素が溜まってガス中毒又は、死亡の原因となります。  
ご使用になる方は勿論、周りの人や家畜などにも十分注意して下さい。
- 安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないで下さい。  
[規定圧力 : 0.75Mpa(7.7kgf/cm<sup>2</sup>)]  
コンプレッサー・エンジンの損傷だけでなく空気タンクの破損に繋がり重大なケガ・死亡の原因となります。  
(調整方法はP14を参照)

## △注意

- アンローダーパイロット弁が0.69Mpa(7kgf/cm<sup>2</sup>)になっても作動しない、それ以上に圧力が上昇する。このような場合は、0.69Mpa(7kgf/cm<sup>2</sup>)以下で作動するように調整してください。又圧力は絶対に0.69Mpa(7kgf/cm<sup>2</sup>)以上にしないで下さい。コンプレッサーの損傷の原因となります。  
(調整方法はP14参照)

## △警告

- エンジンの回転は適正回転にセットされていますので必ず設定範囲内でご使用ください。  
設定を変更すると、以上振動が発生し部品の破損につながり重大な事故火災の原因になります。

## 6 停止

- 1 ドレンバルブ及び吐出コックを開き、圧力をゼロにしてください。

### △注意

ドレンバルブを開ける時は、周りに人がいないことを確認し、徐々に開けて下さい。急に開けるとドレンが一気に出て危険です。

ドレンバルブを開けて、ドレン排出中はドレンバルブの前に手を出さないで下さい。異物(錆等)が飛び出しケガをする事があります。

- 2 しばらく(2~3分間)冷却運転を行ってください。

- 3 冷却運転後、エンジンスイッチを「停止」にしてください。

- 4 エンジン停止後、燃料コックを必ず閉じます。

☆回転を上げたままでエンジンスイッチを切ると、アフターバーニングを起こしマフラーから爆発音を起こす事があります。

### △注意

●タンク内に圧縮空気を残したままにしておくと、コンプレッサー内にドレンが発生し、オイルが乳化しコンプレッサーの焼付事故の原因になります。

●燃料コックを「開」のままにして本機を移動した場合、燃料がオーバーフローし、始動できなくなることがありますのでエンジン停止後は必ず「閉」にして下さい。

# 7 定期点検

## 1 エンジンオイルの交換



エンジンオイル・コンプレッサー油の交換は 3-2 オイルの補給(P5~6)参照

## 2 コンプレッサー油の交換

交換時間は50時間毎です。

## 3 エアクリーナーの清掃

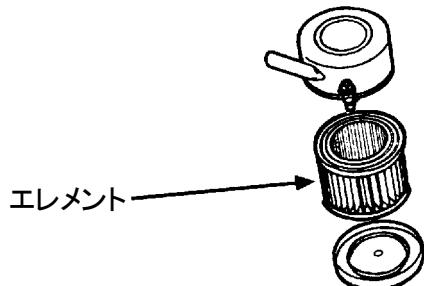
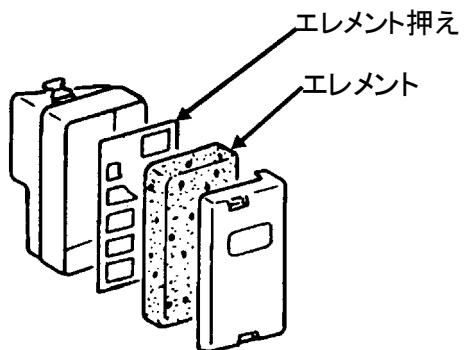
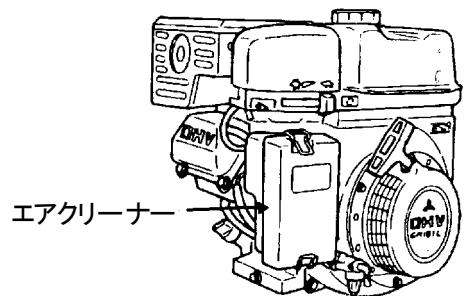
エアクリーナーエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不良、作業棒率の低下、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンやコンプレッサーの寿命を極端に短くします。  
いつもきれいなエアクリーナーエレメントにしておくよう心がけてください。

### (1) エンジン用エアクリーナー

本機のエアクリーナーは半湿式です。  
(エレメントを外したまま使用しないで下さい。)  
清掃は30時間ごと(汚れているときはその都度行ってください)。

### (2) コンプレッサー用エアクリーナー

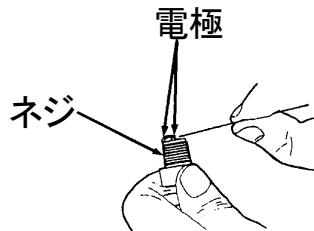
フィルター・エレメントは手で軽くたたくか、内側より空気を吹き付けてホコリを落としてください。  
(エレメントを外したまま使用しないで下さい。)



# 7 定期点検

## 4 点火プラグの清掃

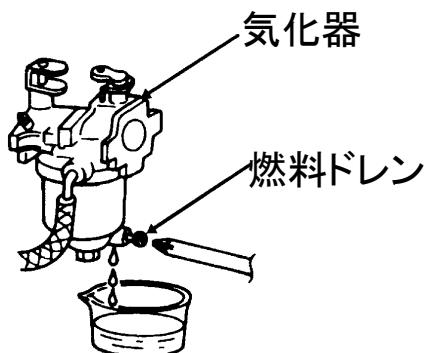
(1)メンテナンスプラグを開け専用の工具を使用して点火プラグを抜き、電極部及びネジ部のカーボンをプラグクリーナー、又はワイヤーブラシで掃除して下さい。(ヤスリ等は使用しないで下さい。)  
点検・清掃は200時間ごとに行ってください。



(2)火花間隔は、0.7mmにして下さい。  
始動不良、運転中の失火は点火プラグの火花間隔が大きすぎても小さすぎても、また点火プラグが汚れた時に起こります。

### △注意

点火プラグは、必ず指定のものを使用してください。指定以外の点火プラグを使用すると、エンジン不調や寿命を縮める恐れがあります。  
指定点火プラグ : NGK BPR6HS  
(SCP/SCPE-22GLS)  
指定点火プラグ : NGK BP5ES  
(SCP-33GLS)



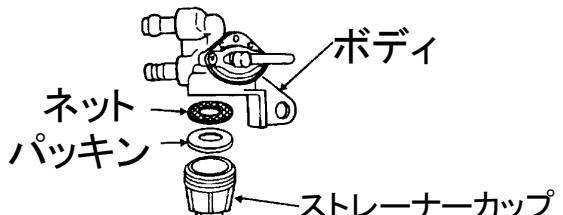
## 5 気化器の点検

アイドリングが続かなかったりオーバーフロー(気化器から燃料が漏れる事)したり、回転変動が激しい時は、気化器の点検又は調整が必要です。

## 6 燃料コックストレーナーの清掃

### △注意

取付後、燃料漏れの無い事を確認してください。



ストレーナーカップを外し、カップ内の水やゴミを捨てネットを洗浄のうえ、ボディに完全に締付けて下さい。

## 7 空気タンクのドレン排出

エンジン停止後、圧力が若干あるうちに空気ドレンバルブを開き、タンク内のドレンを抜いて下さい。

# 7 定期点検

## 8 アンローダー及び安全弁の点検・調整

調整が必要なときは、パネルを外し、下記の要領で調整してください。

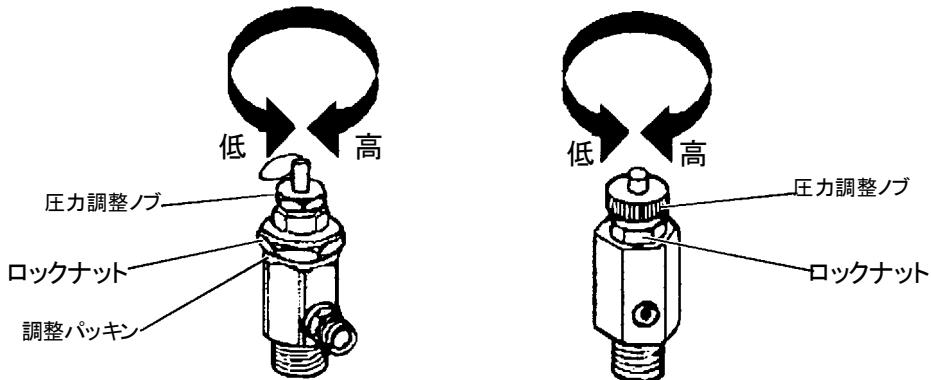
### 《アンローダー》

- 規定値より高い……………圧力調整ネジを左に回す
- 規定値より低い……………圧力調整ネジを右に回す
- 圧力差が狭くなる……………調整パッキンを抜く
- 圧力差が広くなる……………調整パッキンを加える

調整後は、ロックナットを締め、もう一度動作確認を行ってください。

### 《安全弁》

- 規定値より高い……………調整ネジを左に回す
- 規定値より低い……………調整ネジを右に回す



### △注意

- アンローダーの規定圧力は、使用最大圧力( $0.69\text{Mpa} < 7\text{kgf/cm}^2$ )以上に上げないで下さい。圧縮機故障やホースタンクの破裂の原因になります。  
(工場出荷時は適正圧力に設定済み)  
安全弁は点検以外の時は絶対に触らないで下さい。
- 安全弁の開放圧力は $0.75\text{Mpa}$ ( $7.7\text{kgf/cm}^2$ )です。

## 9 エアーホースの点検

### △注意

- エアーホースは必ずコンプレッサー用ウレタンホースを使用してください。  
他のエアーホース(塩ビ等)を使用すると熱により寿命が短くなります。  
吐出側外部エアーホースは、漏れの無いように確実に本体と接続して下さい。

## 7 定期点検

- コンプレッサーの性能や寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには、保守点検を十分に行う事が必要です。
- 点検時間はコンプレッサーの使用状況、取扱方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが、一応の目安として下表に示します。  
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。

### ●コンプレッサー

| 点検箇所         | 点検事項      | 運転時間<br>毎日 | 30時間ごと      | 50時間ごと | 100時間ごと | 200時間ごと       | 300時間ごと | 500時間ごと | 1000時間ごと |
|--------------|-----------|------------|-------------|--------|---------|---------------|---------|---------|----------|
|              |           |            | 30時間ごと      | 50時間ごと | 100時間ごと | 200時間ごと       | 300時間ごと | 500時間ごと | 1000時間ごと |
| 油面計          | 油量点検      | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| 異常音・異常振動     | 点検        | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| 空気タンク        | ドレン       | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| 吸込ろ過機        | 清掃        |            | ○           |        |         |               |         |         |          |
| コンプレッサーオイル   | 全量交換      |            | ●<br>(第1回目) |        |         | ○<br>(第1回目以降) |         |         |          |
| ボルト・ナット      | 緩み点検・増す締め |            |             |        |         | ○             |         |         |          |
| 吸込弁・吐出弁      | 清掃・カーボン除去 |            |             |        |         |               | ○       |         | ▲        |
| アンローダーパイロット弁 | 作動確認      | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| アンローダーピストン   | 作動確認      | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| 安全弁          | 作動確認      |            |             |        |         |               | ○       |         |          |
| 空気漏れ         | 点検        | ○          |             |        |         |               |         |         |          |
| 圧力計          | 点検・矯正     |            |             |        |         | ○             |         |         |          |

表中 ●印は、初めて運転する場合に限ります。

▲印は、部品の交換時期です。

### ●エンジン

エンジンの定期点検一覧表は、エンジンの取扱説明書をご覧下さい。

## 8 長期間格納する場合のお手入れ

### ■ 留意

気化器内に長期間(1ヶ月以上)ガソリンを入れたまま放置しますと気化器のジェットが詰まり、再使用時に始動不良やハンチングなどの重大な不具合を発生することがあります。

エンジンを長期使用しない時は、次にお使いになる時、スムーズに始動できるように、下記の手入れをして下さい。

- 1 エンジンを低速で運転した後、エンジンスイッチを「停止」にしてエンジンを停止します。
- 2 燃料タンク内の燃料を完全に抜き出してください。
- 3 気化器のドレンボルトを緩め、気化器内の燃料を全部抜いて下さい。
- 4 燃料コックのストレーナーカップを外して、カップ内や水やゴミを捨て、フィルターを洗浄し、本体に確実に締め付けてください。
- 5 点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイル約10cc(盃1杯くらい)注入し、リコイルスターターを数回引いてから点火プラグを付け、圧縮の位置で止めてください。  
(圧縮の位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部のサビの発生を防ぎます。)

### ■ 留意

圧縮の位置：スターターロープの引き具合が重たくなるところです。

- 6 外部のホコリ・ゴミを掃除して、湿気のない場所に保管してください。

## 9 トラブル対策

| 状況          | 原因   | 処置  |
|-------------|--|---|
| エンジンが作動しない  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ガソリン不足</li> <li>●エンジンオイル不足</li> <li>●コンプレッサオイル不足</li> <li>●点火プラグ不良</li> <li>●エンジンスイッチがONになっていない</li> <li>●ガソリンタンクに水滴が入っている</li> <li>●圧縮が不十分</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●補給する</li> <li>●補給する</li> <li>●補給する</li> <li>●交換する</li> <li>●ONにする</li> <li>●抜きかえる</li> <li>●プラグ締め付けの確認<br/>リングの磨耗→交換</li> </ul> |
| 運転中の急停止     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ガソリン不足</li> <li>●エンジンオイル不足</li> <li>●コンプレッサーオイル不足</li> <li>●部品の破損</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●補給する</li> <li>●補給する</li> <li>●補給する</li> <li>●破損部品の交換</li> </ul>   |
| 圧力が上がらない    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●吸込、吐出弁の不良</li> <li>●締付部からの空気漏れ</li> <li>●圧力計の故障</li> <li>●アンローダーバイロット弁の不良</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●交換する</li> <li>●締付ける</li> <li>●交換する</li> <li>●調整・分解点検</li> </ul>   |
| 異常音・異常振動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●アンローダーバイストンの磨耗</li> <li>●ケンケビン軸受磨耗</li> <li>●玉軸受に異物混入</li> <li>●各締付部緩み</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●交換する</li> <li>●交換する</li> <li>●交換する</li> <li>●締付ける</li> </ul>  |
| 潤滑油が無くなる    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ピストン、シリンダ磨耗</li> <li>●ピストンリング磨耗</li> <li>●ピストンリングを上下逆に組み込んでいる</li> <li>●純正オイルを使用していない</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●交換する</li> <li>●交換する</li> <li>●刻印を上にして組み込む<br/>合口を同方向にしない</li> <li>●純正オイルに交換する</li> </ul>  |
| 完全にアンロードしない | <ul style="list-style-type: none"> <li>●アンローダピストン磨耗</li> <li>●キャップガスケットより空気漏れ</li> <li>●鋼管袋ナットの緩み</li> <li>●アンローダーバイロット弁の不良</li> <li>●シート面にゴミかみ</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●交換する</li> <li>●締付ける<br/>交換する</li> <li>●締付ける</li> <li>●交換する</li> <li>●掃除・分解点検</li> </ul>   |

# 10 仕様諸元表

| 型 式     |             |       | SCP-22GLS                    | SCPE-22GLS |  |
|---------|-------------|-------|------------------------------|------------|--|
| 寸 法     | 全幅×奥行×高さ    | mm    | 860×579×560                  |            |  |
| 質 量     | kg          |       | 81                           | 83         |  |
| コンプレッサー | シリンダ内径×行高   | mm    | 72×53                        |            |  |
|         | 常用回転速度      | r.p.m | 2200                         |            |  |
|         | 使 用 壓 力     | MPa   | 0.69 (7kgf/cm <sup>2</sup> ) |            |  |
|         | 吐出空気量       | L/min | 300                          |            |  |
|         | 制 御 方 式     |       | パイロットアンローダ式                  |            |  |
|         | オ イ ル 量     | L     | 0.9                          |            |  |
|         | 空気取出し口径     | Inti  | 1/4B×2                       |            |  |
|         | 空気タンク容量     | L     | 6.0                          |            |  |
| エンジン    | 型 式         |       | 空冷4サイクル傾斜型ガソリン(OHV)          |            |  |
|         | 排 気 量       | cc    | 181                          |            |  |
|         | 常用回転速度      | r.p.m | 3600                         |            |  |
|         | オ イ ル 量     | L     | 0.7                          |            |  |
|         | 点 火 方 式     |       | 無接点マグネット点火                   |            |  |
|         | スパークプラグ     |       | NGK:BPR6HS<br>又は相当品          |            |  |
|         | 始 動 方 式     |       | リコイル式                        | セル・リコイル式   |  |
|         | 使 用 燃 料     |       | 自動車用無鉛ガソリン                   |            |  |
|         | 燃 料 タンク 容 量 | L     | 3.8                          |            |  |

※エンジンの詳しい仕様については、エンジンの取扱説明書を参照してください。

この使用は予告なしに変更することがあります。

コンプレッサーの運転開始前に必ず下記空欄に必要なことを  
記入してください。点検の時に大変役に立ちます。

| 項目     | ご記入欄                    |                            |     |
|--------|-------------------------|----------------------------|-----|
| 型式     | SCPE-22GLS<br>SCP-22GLS | ご使用開始年月日                   |     |
| 製造番号   |                         | ご購入先<br>(必須)<br>※必ずご記入ください |     |
| ご購入年月日 |                         | TEL                        | ( ) |

## アフターサービスについて

### 保証規定

#### 1. 保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

#### 2. 適用除外 ●保証期間中でも下記の場合には適用いたしません。

- (1) 不当な修理や改造による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、摺動部の摩耗およびパッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

#### 3. 本書はお買い上げの納品書(納入日が記載されていることを確認)とともに大切に保管してください。

### ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いしています～

同封の保証書に必要事項をご記入いただきFAXいたずらか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。

ホームページ経由でご登録いただきますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。

是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

・登録場所／精和産業トップページ右側「保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

修理サービス

ここからも登録できます→



修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

**SEIWA 精和産業株式会社**

浜松配達センター

〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348  
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

|                |          |                  |     |              |
|----------------|----------|------------------|-----|--------------|
| 仙 台            | 981-1105 | 仙台市太白区西中田6-15-13 | TEL | 022-241-2145 |
| 群 馬            | 371-0854 | 群馬県前橋市大渡町1-8-6   | TEL | 027-251-3457 |
| 東 京            | 136-0072 | 江東区大島5-12-7      | TEL | 03-3638-6911 |
| 神 奈 川          | 242-0029 | 大和市上草柳8-28-18    | TEL | 0462-63-3029 |
| 名 古 屋          | 453-0839 | 名古屋市中村区長篠町4-15   | TEL | 052-412-1717 |
| 大 阪            | 547-0001 | 大阪市平野区加美北8-1-18  | TEL | 06-6794-3511 |
| 岡 山            | 710-0841 | 倉敷市堀南606-1       | TEL | 086-426-5200 |
| 福 岡            | 816-0912 | 大野城市御笠川1-8-7     | TEL | 092-504-7213 |
| エス・ティー<br>・ツール | 891-0175 | 鹿児島市桜ヶ丘2-22-10   | TEL | 0992-75-7550 |
| 塗機商事           | 903-0124 | 中頭郡西原町吳屋108-6    | TEL | 0989-43-4495 |